

大好評「至高の階段」住宅編！

住宅の 階段



4	階段と生活空間	杉浦英一
6	階段が見せる情景	高橋真
8	私のなかの階段の探求	篠崎好明

12 直進階段

伊部のアトリエ	手嶋保建築事務所
沖野上温室の家	加藤詞史／加藤建築設計事務所
MISHIMA HOUSE	芦沢啓治建築設計事務所
赤坂の家	井川博英／清水建設+清孝英・中川佐保子／アトリエエスタス建築設計事務所
神立の二世帯住宅	スタジオ建築計画
シックイの家	武井誠+鍋島千恵／TNA
VALLEY	原田真宏+原田麻魚／MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO
変形地・OFFSET	奥村和幸建築設計室
mono-	細田みぎわ／Migiwa Hosoda Archi-Studio
ホルニストの家	二瓶渉+古谷清寿／アーキエア
ステラ御幸町	森下修／森下建築総研
みつばテラス	セルスペース／早草睦恵
71ply	細田みぎわ／Migiwa Hosoda Archi-Studio
三叉路地の家	長瀬信博建築研究所
IS	渡辺真理+木下庸子／設計組織 ADH
不盡の舎	木原千利設計工房
百人町の家	渡辺康建築研究所
南馬込の家	MTA／高橋真建築設計事務所
RING	黒崎敏／APOLLO 一級建築士事務所

45 折れ曲がり階段

Tenting	DEW STUDIO
南青山の家	廣部剛司建築研究所
天沼の家	池村潤
春日部の家	田辺芳生+小谷野直幸／PRIME+Masahiro Ikeda co.,ltd
田中邸	小川広次建築設計事務所
ハウス・タワー	アトリエ・ワン
小平・T邸	奥村和幸建築設計室
豊玉中の家	田辺芳生+小谷野直幸／PRIME
空中コートの家	篠崎好明／AMO 設計事務所
堀切の家	手嶋保建築事務所
ダンダンダニエ	長岡勉+田中正洋(PPOINT)+横尾真(OUVI)
桜の家	奥村俊慈+奥村靖子／ケミカルデザイン
西調布の家	加藤詞史／加藤建築設計事務所

71 らせん階段

43base	三浦慎建築設計室
Ca	菅正太郎／すがアトリエ
南青山M	廣部剛司建築研究所
TN	渡辺真理+木下庸子／設計組織 ADH
Mn	菅正太郎／すがアトリエ
静岡の家 case001	岩川卓也アトリエ
高井戸の家 Abel	谷内田章夫／ワークショップ
YY(ワイワイ)	彦根建築設計事務所
内露地の家	高野保光／遊空間設計室
益子の家	田中敏博建築設計事務所／田中敏博
ボクテイ	アトリエ・ワン+東京工業大学塚本研究室
畑の見える家	菊地宏建築設計事務所

91 折返し階段

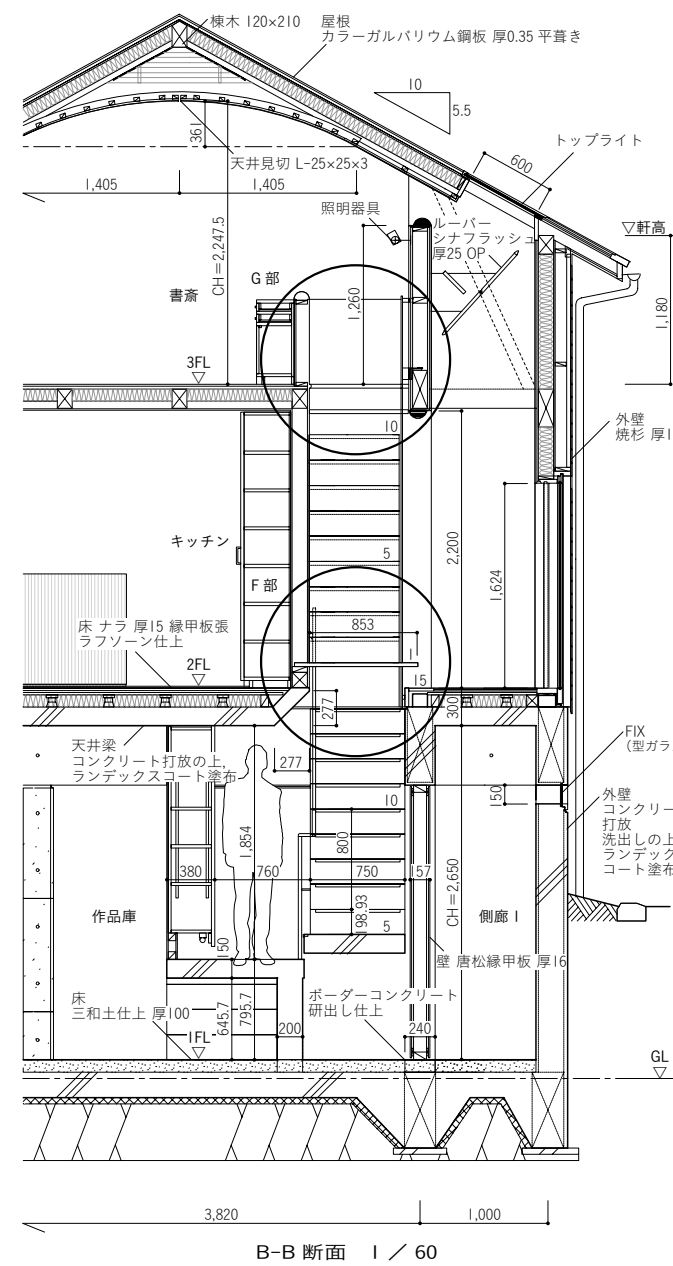
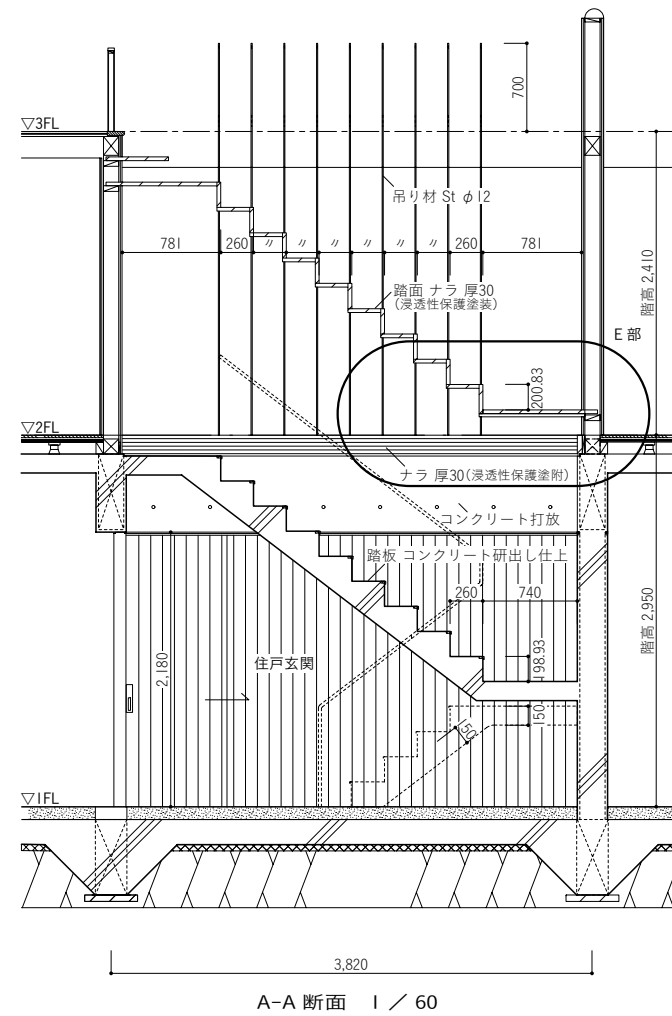
TNG	彦根建築設計事務所
烏山の家	杉浦英一建築設計事務所
西つつじヶ丘の家	MTA／高橋真建築設計事務所
木質構造の家	稲山正弘、住吉賢洋、高野武晴 内田祥士(協力)
House in KAIJIN	布施茂／fuse-atelier+武蔵野美術大学布施スタジオ
IRONHOUSE	椎名英三建築設計事務所+梅沢建築構造研究所
CUBIC LOOP	スタジオ宙／郡裕美+遠藤敏也
茅ヶ崎の家	小川広次建築設計事務所
矢来町のアトリエ	小川広次建築設計事務所

109 家具階段

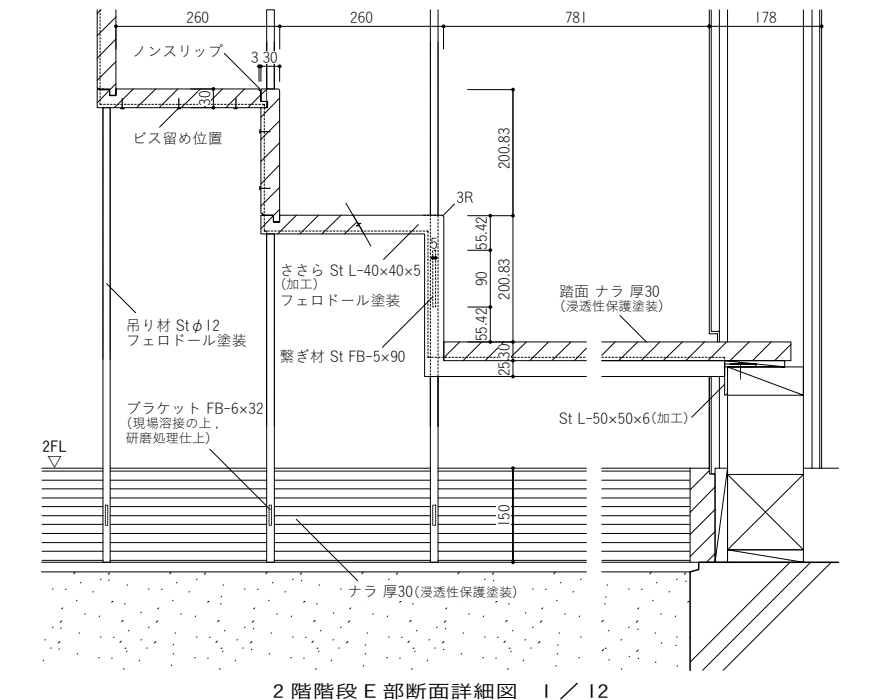
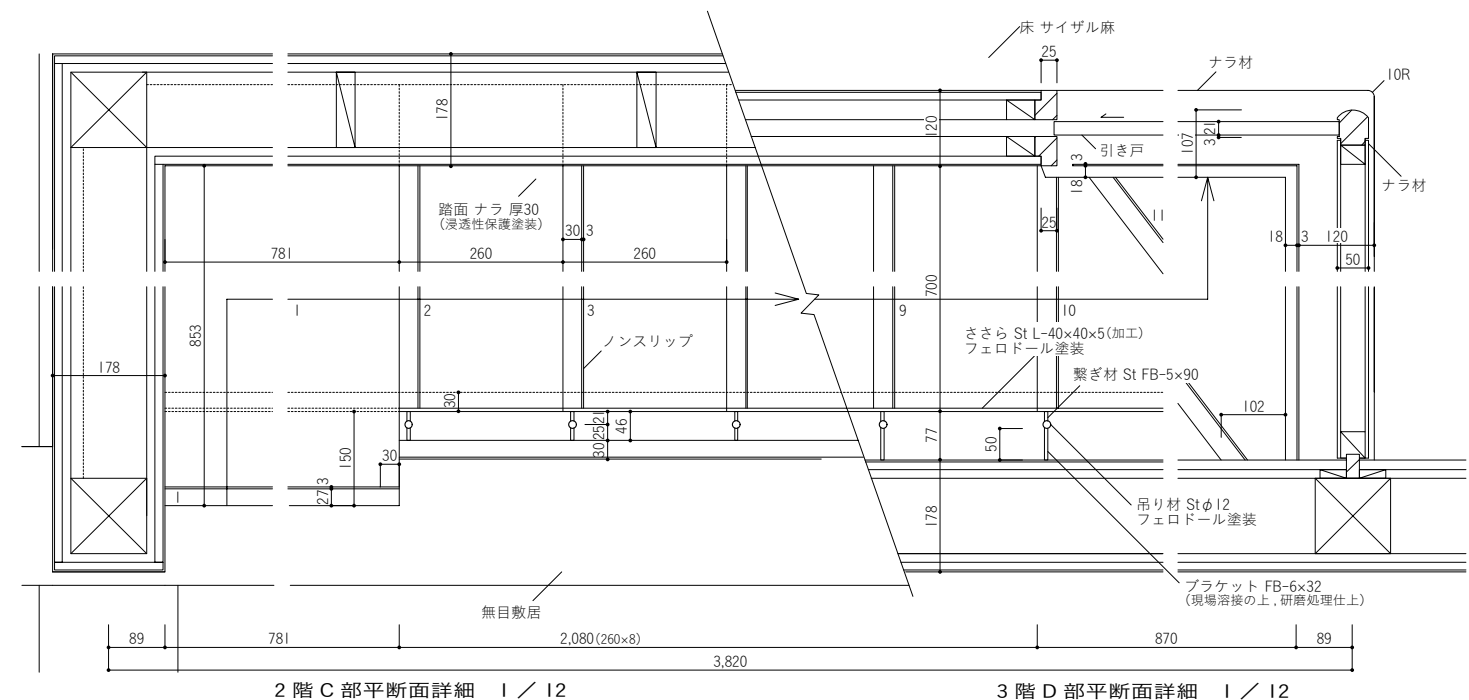
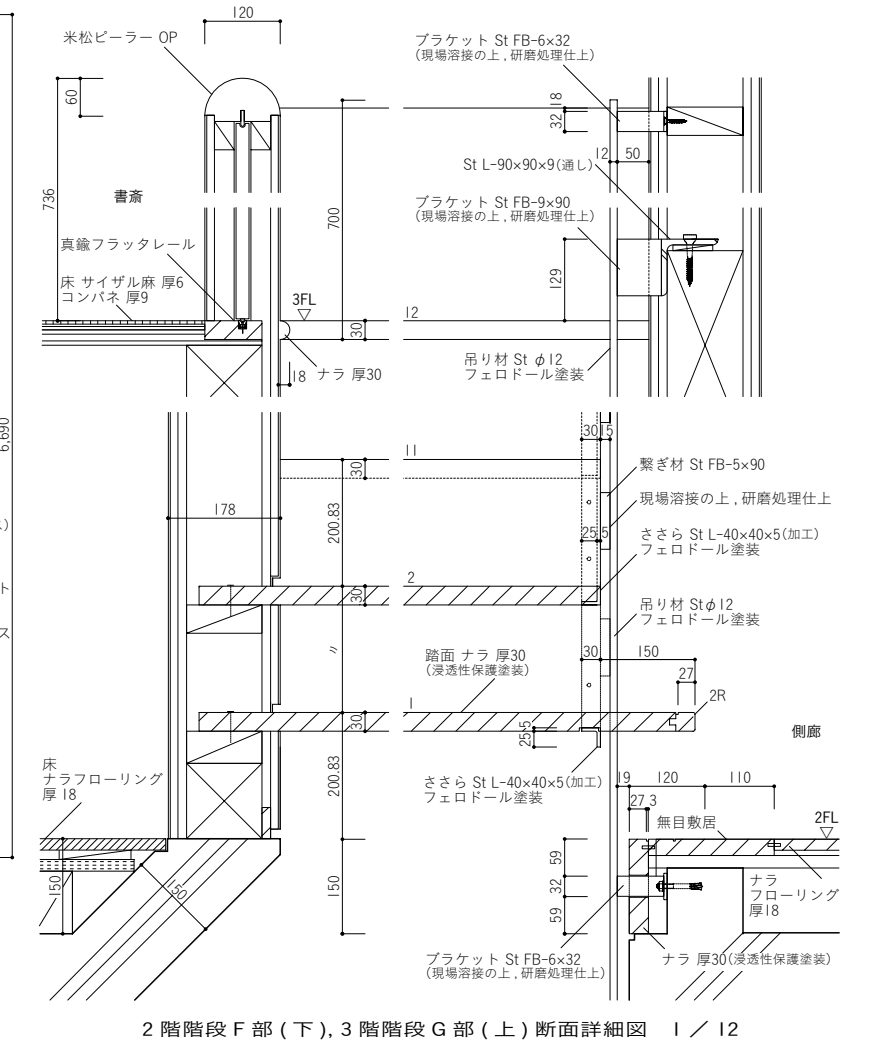
マルサンカクシカクイエ	長岡勉+田中正洋(PPOINT)+横尾真(OUVI)
銀沙灘	森下修／森下建築総研



1階がRC造、2、3階が木造の混構造の住宅で、それに伴い1階から2階への階段はRC、2階から3階への階段は鉄骨造となっている。RC部分は打放し仕上げのさりげない表現であるが、段鼻にナラ材のノンスリップを逃ががほぼゼロの状態に埋め込んでいる精度は、施工時の気遣いを感じさせる。またコンクリート部分も一発仕上げによるもので、補修をしないことへのこだわりが見てとれる。



鉄骨階段部分はスチールとナラの無垢材による構成で、最小限の部材でシンプルに仕上げられている。現場溶接部分も、研磨を掛けて状態を整えるなど、細部へのこだわりが感じられる。コンクリート打放し仕上げ、浸透性塗料による木製部分、フェロドール塗装によるスチール部分等、全体的に「生成り」感にこだわった設計とディテールをもっている階段である。



階段のドラマツルギー

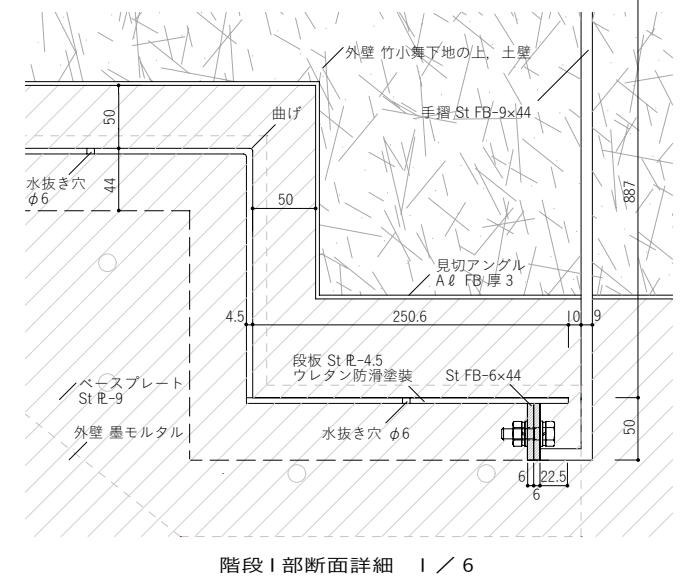
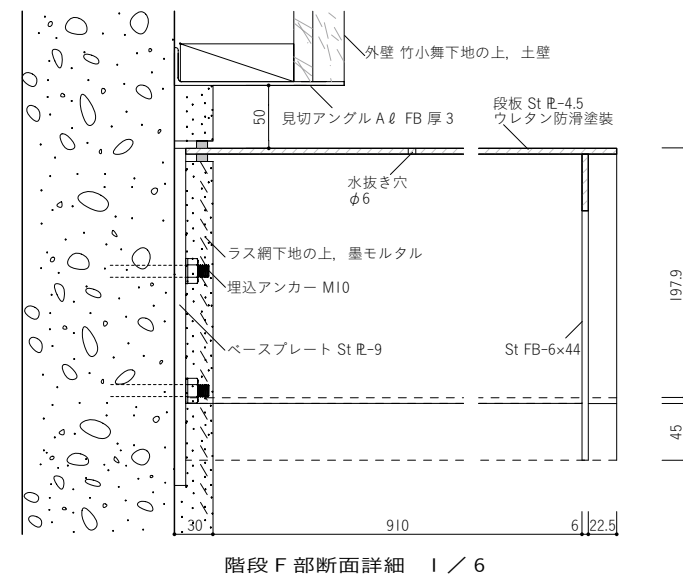
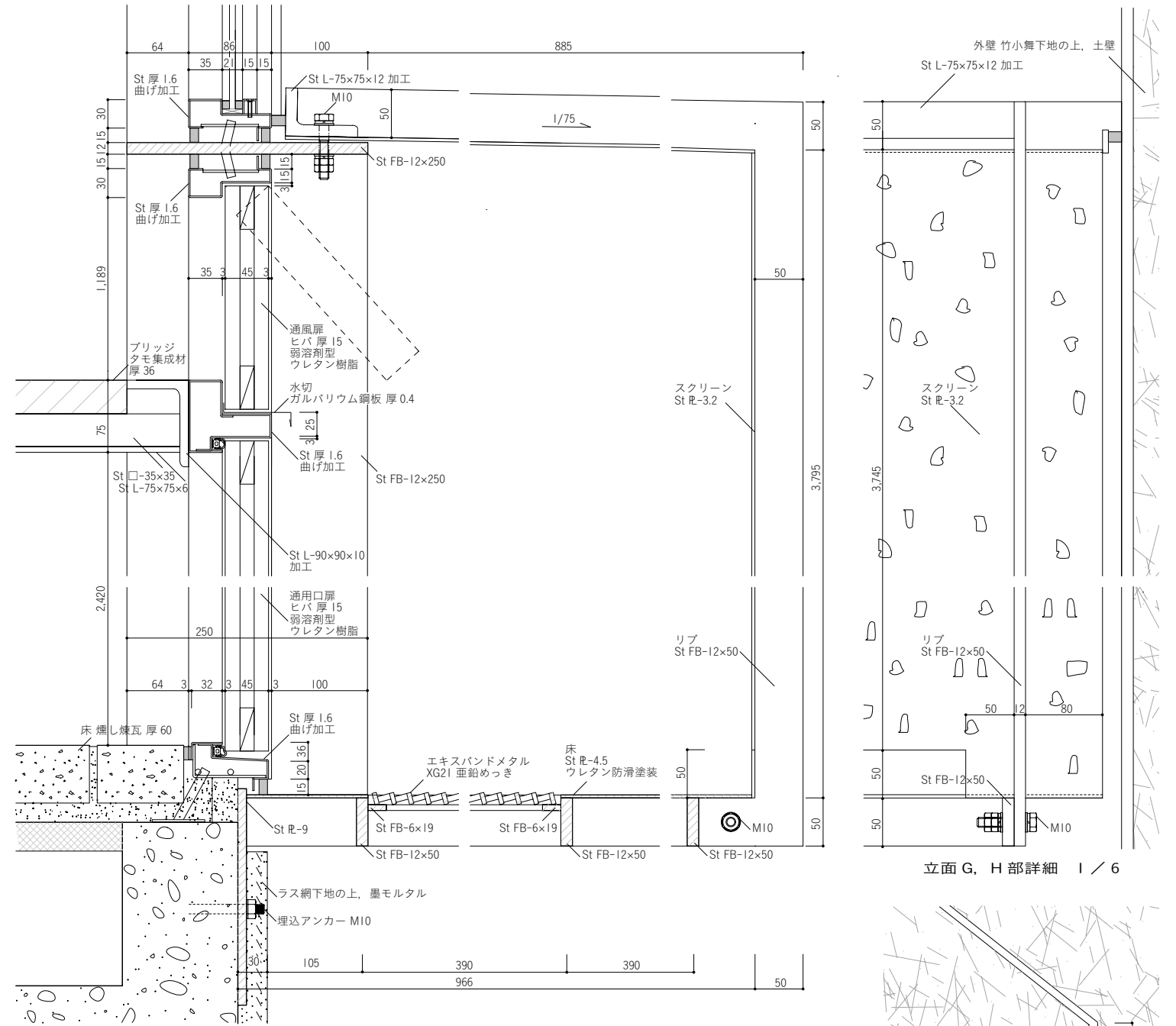
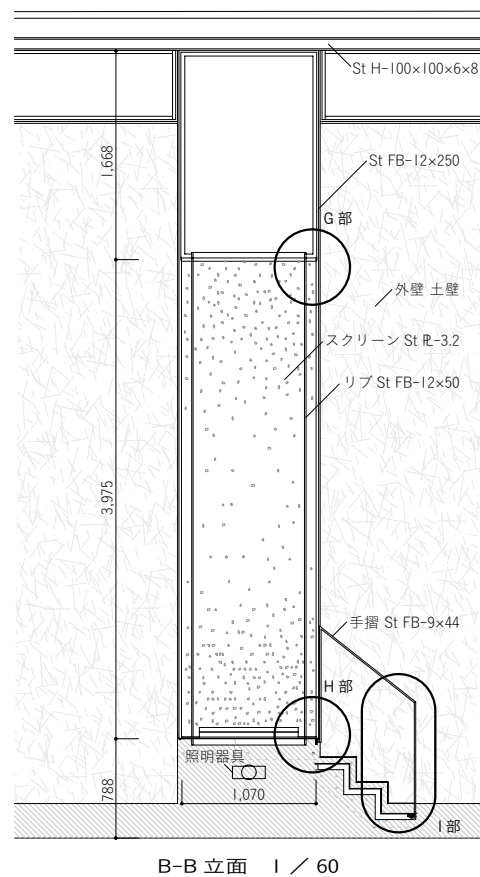
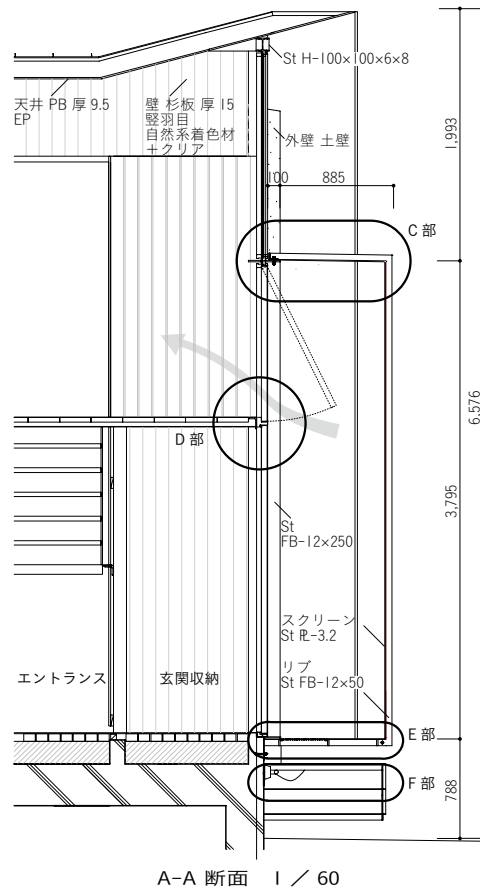
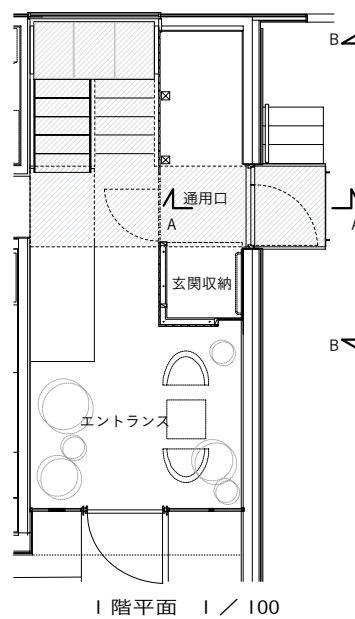
沖野上温室の家

加藤詞史 / 加藤建築設計事務所

施工 / 鈴木工務店 構造・規模 / 木造・地上2階 竣工 / 2012年
所在 / 広島県福山市 撮影 / 畑 拓

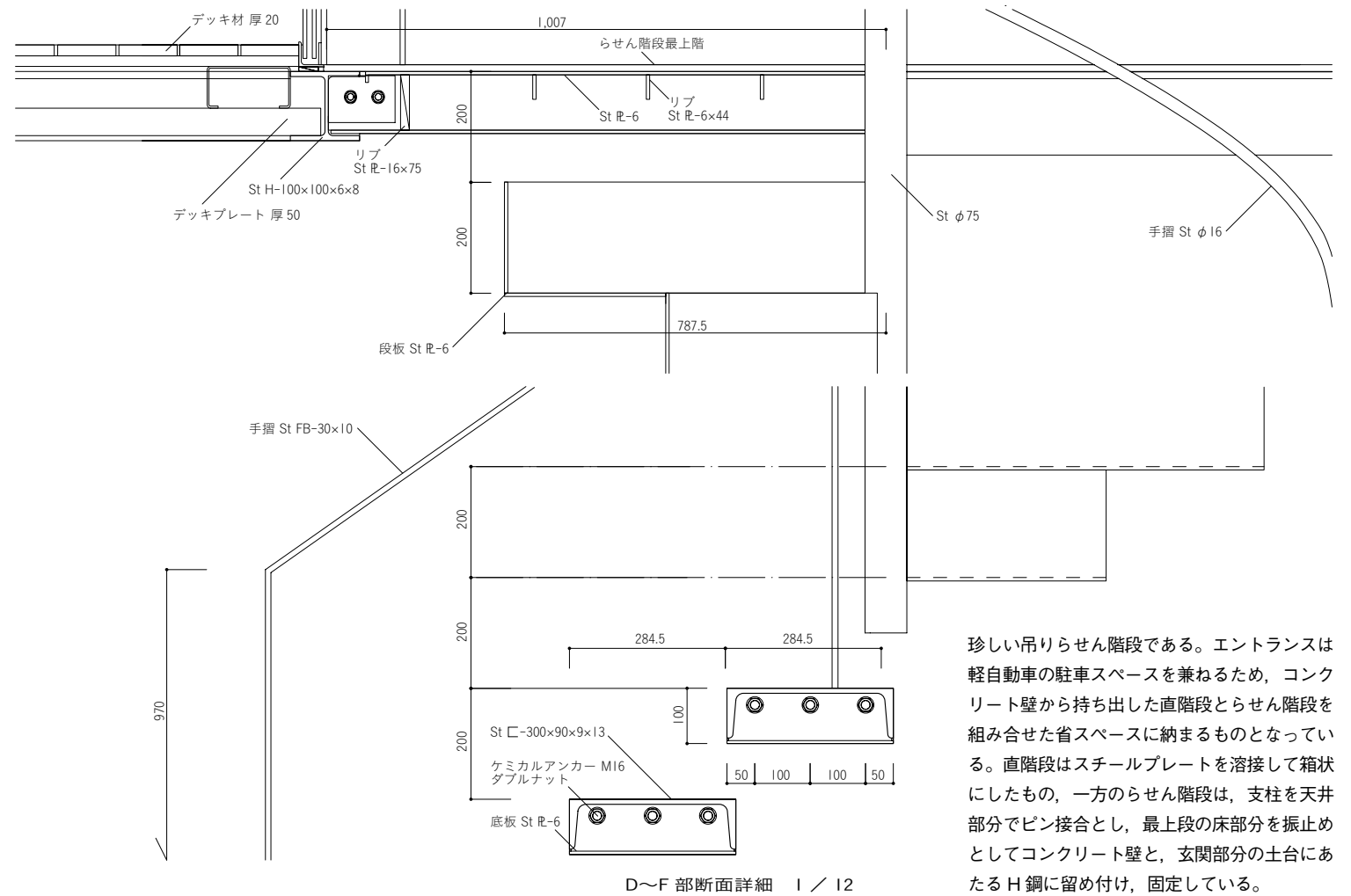
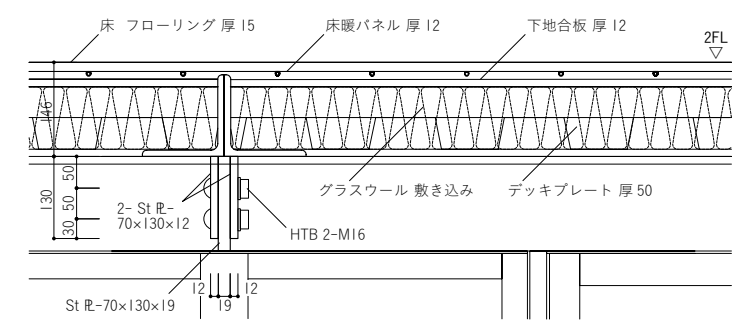
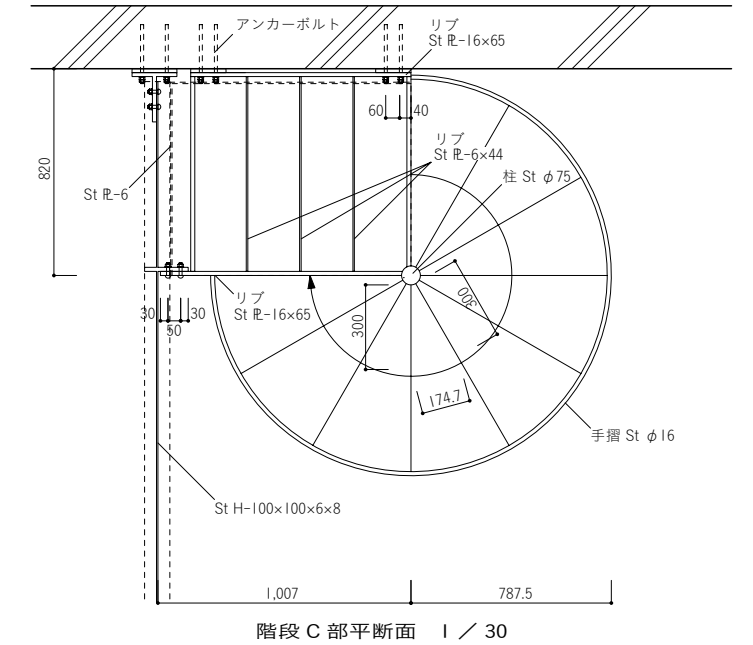
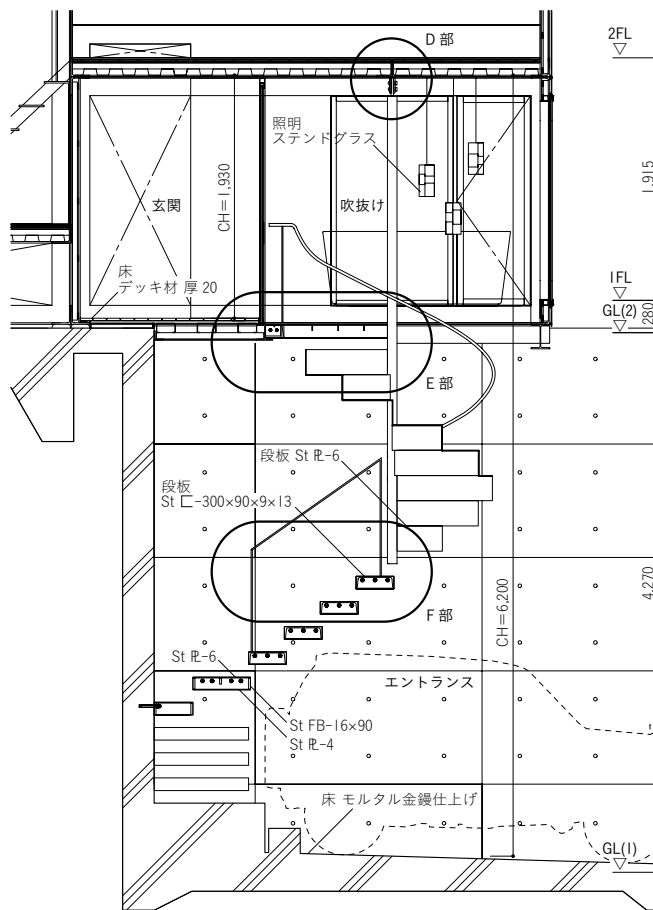
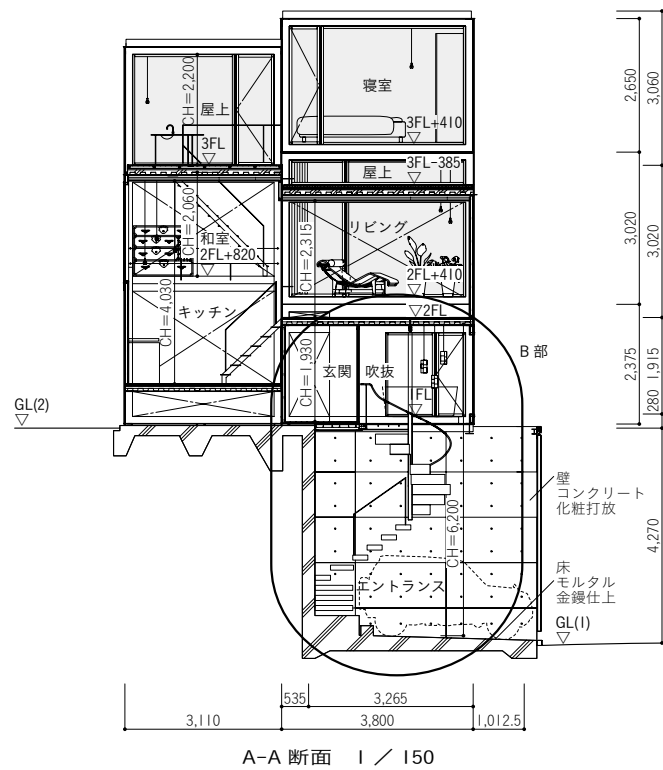
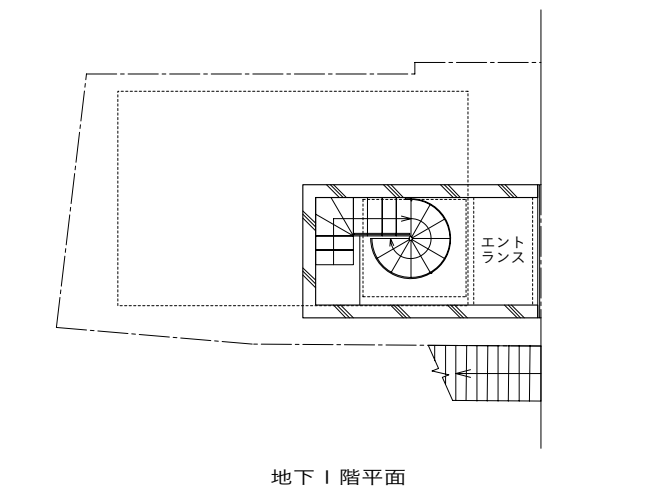
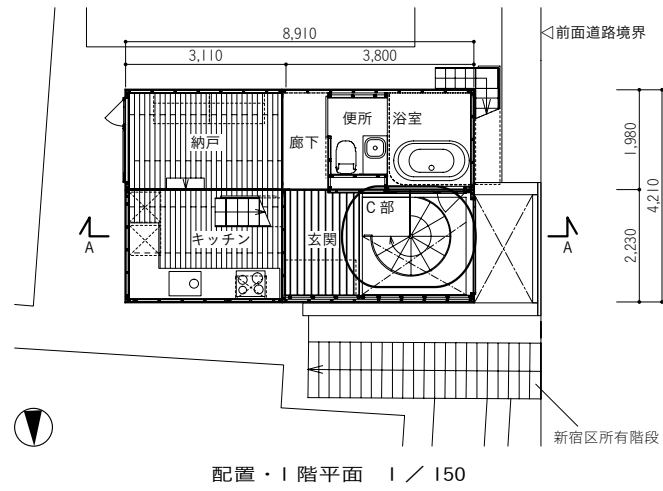


装置としての階段は数多くの舞台上演的に使われている。その逆に建築に劇的な階段を用いた演出も少なくない。この階段もその一つと言えそうだが、場面の転換は不整形の小さな穴を穿たれた鉄板によって隠されていて、踊り場での行為の転換は気配として感じられるだけである。自体が照明器具ともなっている踊り場を夜間行き来する人影も大事な要素として考えられているようだ。本来の役割は住宅のサブの出入口なのだが、その演出的イメージは夜、人が階段を数段上り目隠しの影に消え、小さな穴からの光の点滅と土壁に映る人の影が場面の転換を予告し、一転明るくなり（扉が開き）人が消えている。そんなシーンを連想させる。そのせいか入り口に見えても出口には見えにくい。本来機能的に均質な場所に不可逆な人の行為を思わせる階段である。



オブジェのように浮かび上がる 吊りらせん階段

43base
三浦慎建築設計室
構造設計/佐藤淳構造設計事務所 施工/日南鉄構
構造・規模/鉄骨造一部RC造・地下1階、地上3階 竣工/2011年
所在/東京都新宿区 撮影/畑拓



珍しい吊りらせん階段である。エントランスは軽自動車の駐車スペースを兼ねるため、コンクリート壁から持ち出した直階段とらせん階段を組み合わせた省スペースに納まるものとなっている。直階段はスチールプレートを溶接して箱状にしたもの、一方のらせん階段は、支柱を天井部分でピン接合とし、最上段の床部分を振止めとしてコンクリート壁と、玄関部分の土台にあたるH鋼に留め付け、固定している。